

令和5年5月1日(月)

イソップ童話『ロバを売りに行く親子』

ロバを飼っていた父親とその息子が、そのロバを売りに行くため、市場へ出かけます。二人がロバを引きながら町へ向かっていると、それを見た人が、「せっかくロバを連れてきているのに、乗らずに歩いているなんてもったいない。」と言いました。

それを聞いた二人は「なるほど」と思い、父親は息子をロバに乗せて歩き始めます。

しばらく道を行くと別の人が二人の様子を見て、「元気で健康な若者が楽をしてお父さんを歩かせるなんて、あまりにもひどいじゃないか。」と言いました。

それを聞いた二人は「なるほど」と思い、今度は父親がロバにまたがり、息子が父親を乗せたロバを引いて町へと歩き出します。

するとまた別の人が二人を見て、「自分だけ楽をして子どもを歩かせるとは、なんて悪い親なんだ。二人で一緒にロバに乗ればいいだろう。」と言いました。

二人は「それはそうだな」と思い、二人でロバに乗って市場のある町を目指します。

すると今度は別な人が、「二人もロバに乗るなんてロバがかわいそうじゃないか。もっとロバを労わって楽にさせてやればどうか。」と言いました。

父親と息子はロバが楽になるだろうと思い、1本の棒にロバの両足をくくりつけて吊り上げ、二人でロバを担いで歩きます。しかし、窮屈な姿勢を嫌がったロバが暴れ出し、不運なことに、暴れたロバは橋から川に落ち、そのまま死んでしまいました。

この童話は、人の意見をよく聞くことはいいことですが、人の意見に振り回され、自分を失ってはいけないという教えです。自分の考えを持った上で人の意見に耳を傾けましょう。しかし最終的には、自分で決定する必要があります。

皆さんは、どの部活動に入るかとか、どんな勉強法を取り入れるか、そしてどの志望校を受験するかなど、自分で判断し自分の意志で実行しなければなりません。その決定には、正解も不正解もありません。もし、やれるだけやってダメだったら、やり直せばいいのです。ただし、自らの意志で判断し実行していきましょう。